

EC（ヨーロッパ共同体）



*和田敏英収集史料584 (27 の12) 「ヨーロッパ共同体」

解説

第二次世界大戦後、ヨーロッパは戦争の傷痕をいやすために、統合されたヨーロッパを創り上げることを目指します。

1950（昭和25）年にフランスのシューマン外相が「重工業、石炭、鉄鋼のヨーロッパ最初の共同体の創設」を提案し、西ドイツ、フランス、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルクの6か国が参加を表明しました。これをうけて、翌々年にECSC（ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体）が創設され、さらに1958（昭和33）年にはEEC（ヨーロッパ経済共同体）とEURATOM（ヨーロッパ原子力共同体）が設立されました。こうして、かつては相争ったこともある6か国の2億人近くの人々による共同市場が誕生し、ヨーロッパの経済統一が決定的な一歩を踏み出しました。

そして1967（昭和42）年に、上記のECSC、EEC、EURATOMのそれぞれの理事会と委員会を統合して誕生したのがEC（ヨーロッパ共同体）です。ECは、その後他のヨーロッパ諸国へも門戸を拓けながら、域内の市場の統合を完成させて、1993（平成5）年にEU（ヨーロッパ連合）に発展し、政治的な統合も推進しています。この壮大な実験は、時に危機にみまわれながらも現在も進行中です。

写真は、1970（昭和45）年に開催された大阪万博のECのパビリオン（EC館）の案内リーフレットです。「平和への想像」をテーマにした6部からなる展示は、誕生後そう時間がたっていない、ECの熱気を伝えるものでした。